

平成27年度第2回河南町地域公共交通会議 会議録（議事要旨）

○ 日 時 / 平成27年8月28日（金）午後1時30分～午後3時40分

○ 場 所 / かなんぴあ2階 大会議室

○ 出席者 / 委員26名

欠席委員2名（永友 敬二 委員、松笠 順一 委員）

随行者4名

事務局4名

傍聴者3名

○ 配布資料

- ・議事次第

- ・委員名簿

- ・前回議事要旨

- ・第2回河南町地域公共交通会議 協議事項

- ・河南町地域公共交通運行計画（案）

- ・路線バス利用実態調査結果

○ 議事次第

1. 開会

2. 案件

- ・河南町地域公共交通運行計画（案）について

- （参考：路線バス利用実態調査結果について）

3. その他

4. 閉会

○ 議事内容

■「河南町地域公共交通運行計画案」の要点について

事務局から「河南町地域公共交通運行計画案」の要点について説明。

■実証運行に向けての今後の流れ

事務局から説明。

運行事業者ヒアリング、地域住民説明会を経て運行計画を作成。その後事業者の選定及び運輸局への登録（許可）申請。その後に H28年2月から1年間の実証運行を予定している。

■事業主体及び運行主体について

- ・事業主体及び運行主体というところをご協議いただきたいと考えている。なぜかと申しますと河南町の公共交通というのは金剛バスによって成り立っている。現代の車社会になってきて経営状況が厳しい中、各路線バス事業者は地域の公共交通を守っている。そんな中で河南町の循環バスを走らせるということで、通常循環バスというのは

道路運送法第4条によるバス事業者をお願いすることになるが、それが叶わない場合はどうするのかというところと79条による市町村運営有償運送ということになる。そこで前回の交通会議から色々な交通事業者とのヒアリングを行ってきており、その報告をお願いしたい。

- 金剛バスへは本交通会議の委員の要請を何度か行ってきたが、受諾はいただけていない状況で、検討会議でまとめていただいた河南町地域公共交通基本計画の説明も行っているが、具体的な返事はない状態。町としては交通会議の意見、住民の意向を踏まえた場合、町内の交通問題は避けて通れない課題であり、交通網を確立しなければならないという使命感を持っている。それを踏まえて本日運行計画案をご提示させていただいている。
- こういった経緯の中で河南町としてこれを成立させるためには河南町が事業主体となり、運行は責任をもってお願いできる事業者をお願いすることもありうる。そうなることと79条ということで公共が乗り出すということに対する理屈が必要となる。それはむやみやたらに乗り出すと民間のバス事業者を圧迫し、そのお客さんを取ってしまう。そういうことのないように工夫しなければならないというのが基本的な考え方であるというのを重々理解しているので、まずどういう状況下なのかということで河南町内の金剛バスはどのような性格かということ进行调查した。これについて報告させていただきます。

■路線バス利用実態調査結果について

事務局から路線バス利用実態調査結果について説明。

□調査概要

- 調査の対象路線 ①阪南線 ②千早線 ③石川線 ④白木線 ⑤河内線
- 調査日時 平成27年6月10日(水)～6月21日(日)
各路線につき平日・休日1日を選定し、調査した。
- 調査項目 乗降客数(町外のバス停の乗降客数は調査していない。)
属性(性別、年齢等)

□調査結果

【平日】

運行本数(往復) 338便/日
町内バス停乗降客数 1,715人/日
町内移動乗降客数 54人/日(実人数は27人)
駅乗降客数 2,486人/日
町内移動乗降客数割合 3.1%
1便当たり平均乗降客数 5.1人/便
町内利用率 69.0%

【休日】

運行本数 268便/日
町内バス乗降客数 1,344人/日
町内移動乗降客数 34人/日（実人数は17人）
町内移動乗降客数割合 2.5%
1 便当たり平均乗降客数 5.0人/便
駅乗降客数 1,804人/日
町内利用率 74.5%

◆意見

- ・町内移動乗降客数の人たちが循環バスの乗客となるのか。
→転換するということになる。
- ・町内移動乗降客割合が約3%だが、競合は少ないと考えるが、どうか。
→両面あると思われる。少ないとも取れるが、一概に評価するのは難しい。
- 金剛バスの停留所との乗継を重視してほしい。循環バスが運行されることによって乗客を奪うのではなく逆に乗継することにより増やせることもあると考える。
- ・町内移動が3%で少ないと考えるが、逆に言えば循環バスの乗客がその程度しか見込めないのではないか。PRにかなり力を入れないといけないと考える。
- ・3%~4%と少ない数字ではあるがどういうふうに判断するか。数字が少ないから次のステップへ行くのではなく、十分検討しなければならない。
- ・3%~4%がどの程度影響あるのかというのは意見が分かれると思うが、実証運行をするにあたり3%~4%の乗客が全て循環バスに流れるのかということではない。その裏側には時間帯や運賃設定といった内容も影響するであろうし、先ほどおっしゃられたように乗継することによって乗客の掘り起しにもなるかもしれない。一概にこの数字を見て路線バスにどの程度影響があるのか判断するのは早計である。3%~4%という数字を単純計算してみると平日休日合わせて約45名であり、その45名が往復400円利用したと仮定した場合、これが全部流れると1カ月で約20数万円となる。それがバス会社に与える影響としてどうなるか。乗継等で乗客が増えない限り20数万円は赤字になってしまう。そのため新たな交通体系の中で総流動人員をどう増やすかというところに重きを置いていかないといけない。
- 実証実験をやったうえで色々調整していきたいと考えている。
そこで実証実験を行うにあたり、このフローにありますように実証実験を急ぎたいところがあるが、仮に河南町が運行主体となって運行するというのを可能とするための条件があるのであればご教示願いたい。
- ご質問頂いた件については、既に河南町の方にお答えさせていただいている。
- ・実証運行のスケジュールが決まっている中で、79条で行くという結論を出す期限は。
→10月、11月に申請となるのでそれまでに結論を出す必要がある。

■運行ルートについて

事務局から運行計画（案）について説明。

山間部については、交通事業者との事前協議及び住民の意見を踏まえ、（A）（B）2つのルートにわけセダン型乗用車の定時定路線型運行に修正している。

■バス停について（循環バス）

事務局からバス停について（循環バス）について説明。

間隔は概ね「400m」を基本とする。

交通安全の観点からできる限り路外に設置する。

北部循環バス 17箇所

北部循環バス（A） 18箇所

南部循環バス（B） 18箇所

■運行日、時間、頻度について（循環バス）

事務局から運行日、時間、頻度について（循環バス）について説明。

◇運行日

北部循環バス 毎日運行

南部循環バス（A）（B） 隔日運行

※日曜日は別ダイヤ

◇運行時間

午前8時台～午後7時台を基本とする。

◇運行頻度

1時間に1本

■運行車両・使用台数（循環バス）

事務局から運行車両・使用台数（循環バス）について説明。

マイクロバス2台

■停留所について（山手路線）

事務局から停留所について（山手路線）について説明。

間隔は概ね「400m」を基本とする。

交通安全の観点からできる限り路外に設置する。

山手路線（A） 6箇所

山手路線（B） 9箇所

■運行日、時間、頻度について（山手路線）

事務局から運行日、時間、頻度について（山手路線）について説明。

◇運行日

隔日運行

◇運行時間

午前8時台～午後5時台を基本とする。

◇運行頻度

2時間に1本

■運行車両・使用台数（山手路線）

事務局から運行車両・使用台数（山手路線）について説明。

セダン型乗用車 1台

■運行主体（山手路線）

事務局から運行主体（山手路線）について説明。

タクシー事業者

◆意見

- ・山手路線（B）について、一方通行で行ってしまうと例えば弘川で乗った人が一旦青崩まで行かなくてはならない形になるので効率が悪い気がする。千早を通らずに弘川→上河内→下河内→青崩といった1本道を往復するのではなく千早領域を通るルートを打診した理由は。

→最短距離で青崩に向かえるルートとして、できる限り運行時間の短縮を図っている。

- ・山手路線（A）（B）それぞれの想定時間は。

→それぞれ約40分程度。

- ・山手路線（B）について、やまなみ～オークワ間に停留所を設けない計画となっているが、停留所を設ければ、南部循環バス（A）と合わせてやまなみ～オークワ間は毎日運行になるのでは。

→改めて住民の皆さんの目に触れるところで説明させていただき、9月中に住民の皆さんに周知をし、色々ご意見いただいたうえで、次回の交通会議に諮りたい。

山手路線に関しては当初、福祉的な観点から無償を想定していたが、有償の計画に今回変更されているため、この点に関しても再度検討したうえでお諮りをしたい。

- ・ルートだけを見てしまうと運行時間の短縮が目に見えないのでバス停ごとに時間を入れてみては。

→2時間に1本のバスなので利用される方は2時間待たないといけないということ踏まえてご意見をいただきたい。

→循環バスのバス停についても住民の皆さんのご意見を色々伺いながら箇所等決定していきたい。

- ・南部循環バスについて隔日運行だと（A）は道の駅へ行けない。道の駅は地方創生の河南町の拠点としているため、（A）の方もいけるような工夫を頂きたい。

■運賃について

事務局から運賃について説明。

□循環バス 100円～200円

□山手路線 200円～400円

実証実験期間は1年を想定しており、半年間ずつ運賃を変更し、検証して正式な運賃を設定する。

◆意見

- ・運賃に幅を持たせた計画としているが、実証実験時にははっきりと決定しないといけない。最初の運賃はどうするのか。何をもって決定するのか。

→住民説明会でのご意見を踏まえて設定する。

- ・金剛バスの運賃は。

- ・河内から富田林まで370円、山手路線の運賃が400円となった場合、オークワまで循環バスの方が高くはなる。

→青崩から富田林までは450円ほどである。

→まず青崩には平日は路線バスがないことを前提に考えてほしい。金剛バスの運賃も調査はしているが、この循環バスや山手路線の運賃について金剛バスの運賃でいくとこの循環バスはいくらかというような考え方はしていない。あくまで町内移動でいくらかということ踏まえてご意見をいただきたい。

- ・実証実験時に運賃の設定を変更するということだが、200円から100円への変更は容易かもしれない。しかし、100円から200円への変更は難しいのでは。

- ・大阪府域で有償運行している団体は24団体、そのうち100円が7団体、200円が3団体で100円が一番多い。河内長野市は200円である。地域の特色、運行する路線の延長も違うため一概には言えないが、わかりやすい料金体系にしているところが多いのが実態である。

→また判断していただける場を改めて設ける。

→社会実験は1年間行う予定で、1クール半年で考えており、改善も加えていく。運賃については最初からこの期間は200円、この期間は100円というふうに宣言してやればよい。実証実験では運賃は上げたらどうなるか、下げたらどうなるか実験するのが目的である。どこかで赤字が出るのは間違いなく、ということは住民さんのどこかで負担しているということになる。

■実証運行の評価について

事務局から運賃について説明。

定量的（数字）な評価：収支率（他市町村の平均は4割ほど）、利用者数による評価
定数的な評価：外出する機会が増えた等（利用者の声）

定量的及び定数的な評価による基準を作成し、PDCAを行い、ルート・時間・運賃等の改善及び見直しを進める。

■運行主体について（4条か79条か）

・バス事業者が喜んでやらしてくれという状況ではないため、4条で進めていくのは困難である。そのため79条による市町村運営有償運送となる。

79条のためには、この会議で市町村運営の必要性の合意が必要となり運輸局に認めていただくというプロセスが必要になる。必要性というのは空白地域、不便地域ということになるが、その一つの材料として路線バスの利用実態調査だと考える。循環バスと路線バス路線は路線で見れば重複しているが、行き先が違う。今回の調査の結果にある町内移動率が3%~4%という結果は路線バスと競合するというよりは、自動車との競合。つまり、マイカーに代わる交通手段であるバスを考えているということになるかと思う。必要性の合意については、次回までに皆さんの意見を踏まえながら結論を出したい。考え方としては、我々のバスは駅直通ではなく町内でいかに循環を高めて町を元気にしていくというまちづくりのためのバスを考えており、路線バスの通勤目的のバスとは違うというのを次回の会議までに考えて頂きたい。

→今おっしゃられたように喜んでやらせてくれと手を挙げてくれる事業者はいない。そこで今結論を出せるかという今は出せない。次回までに皆さんの意見を聞きながら結論を出したい。

■その他

□今後の予定について

事務局から今後のスケジュールについて説明。

- ・住民説明会 各地区と調整後、行う。
- ・交通会議 10月予定

交通事業者との調整についても具体的な内容を詰めていき、10月に予定している法定会議で具体的な内容を提示できるように詰めていく。

□住民への周知について

- ・事務局（町）にお願いしたいことがあり、検討会議のときは広報、HP、ニュース等で町から情報提供していたが、どんなやり方がいいのかはわからないが HP、広報等（広報で書ききれなければ号外的なニュース）で周知していただきたい。

→皆さんの活性、交流の手段として循環バスを使っていたきたい。その他の市町村の色々な事例を知っているが住民のみなさんの活発な活動を支えるための交通機関、やまなみホール・かなんぴあ・役場といったものが住民の皆さんの活動の場になるというようなはっきりとした意思表示をしながら、このバスの運行を進めて頂きた

い。そうでなければ失敗する。大体先進事例でも成功しているところの方が少ないのが現状である。河南町は色々な活動をしている。その活動の場、手段として循環バスを使っていただくよう住民の皆さんに周知徹底をしていただき、委員の皆様方にも 地域への周知をお願いしたい。

以上